



TITLE:

長崎縣今福町概観

AUTHOR(S):

森, 壽美衛

CITATION:

森, 壽美衛. 長崎縣今福町概観. 地球 1934, 22(1): 39-47

ISSUE DATE:

1934-07-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/184314>

RIGHT:

長崎縣今福町概観

森 壽 美 衛

- 一、緒 言
- 二、地 形 區
- 三、耕地と灌漑
- 四、石 炭
- 五、漁 業
- 六、聚 落
- 七、商品の出入
- 八、結 言

一 緒 言

丘陵性の半島・島嶼に富む長崎縣地方に於ては自然の地形上多くの小さい區域に區分されてゐるので、その各區を一單元として研究するのに都合がよい。佐世保軍港以北の北松浦半島はその東部にある國見岳から西乃至北方に放射狀に川谷がよく發達して、各流域は廣狹の差こそ

あれ比較的高い分水嶺によつて界せられ、それ等が又多くは行政上の町村界となつてゐるので、一個又は數個の町村が地理的の一領域をなしてゐる。相浦川谷・佐々川谷・志佐川谷等は數個町村に互る廣い領域であるが、今福川谷は全領域が今福町内に含まれてゐる程で狭い領域の部に屬する。

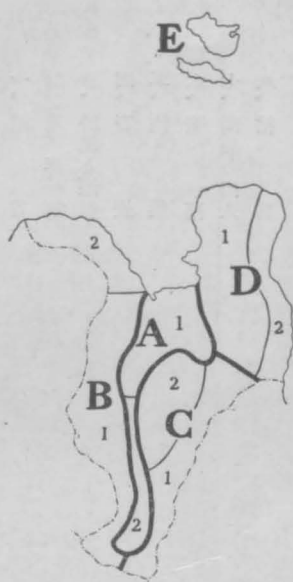
二 地 形 區

今福町は南境國見岳下葛籠盆地つづらより發して北流する今福川斜面の區域を主とし、小面積の半島と島嶼を含めて、自然の地形上よく纏つた區域である。

基盤をなす古第三紀層の地は比較的浸蝕よく進み低い丘陵地となつてゐるが、所々に噴出し

て居る玄武岩地は硬くて浸蝕に抗する力が強いから廣い高臺狀になつて残り、又時にはメサ、或はビュートの狀を形成して居るものもある。今福川は其等の中央を殆んど直線狀に北流し、谷は極めて深く川口は直ちに深い今福灣につゞ

第一圖 今福町地形區圖



今福全景



南方の丘上より今福を見下ろした所である。今福灣が沖積平野と接する所左方の山の崖下に新町、元浦の中心部が白く見える。右方の濱脇半島の緩斜面はよく開け江迎の聚落が發達した。中央の低い丘陵の尖端には小學校右方の谷には八幡山炭坑がある。濱脇半島の向には飛島が浮んでゐるし、海を隔てゝ前方に横はるは鷹島の玄武岩臺地である。

河谷共通の形でこの谷も一の斷層角低地であると思はれる。その窪地は沈没した今福灣の中央まで追跡するところとが出来る。今福の漁港はこの角窪地と海水面との交はる地點

いてゐる。此等の點から察するにこの谷は單なる浸蝕谷でなくて一の構造上の裂線に當つてゐるものであると思はれる。

川の西部即ち左岸は急傾斜で對岸の東側即ち右岸地方はやゝ緩である。これは北松浦半島各

に發達した。

今福の地形區分は次のやうにしたらよいと思ふ。

A 中央低地帯 今福川沿岸及び今福灣頭の沖積平野を含む地域であつて南北に細長い帶狀地である。

A₁ 今福平野 今福川下流及び今福灣頭部の低平な地である。今福川の運搬した砂礫は沈水河口を埋積しつゝあるけれども、著しく沈降した今福灣は到底埋め盡すことは出来なかつた。現今の平野も自然の作用による沈積によつてこれだけ開けたのではなくて、有史時代に於ても大いに工作を加へ埋立を行つたのである。堤防を築いて海水の浸入を防ぎ、内側に新田をつくるのは難工事であつたらしい。よくどこでも聞く人柱の犠牲者を出した言ひ傳へがこゝにもある。現今でも灣頭部には堅固な防波堤が築かれてあつて内部の濕田を護る。なほ現河口附近には石炭採掘の棄土を捨てたために埋立地が出来

た所もある。かくの如くして漸く發達した平野は狭いながらもこの町に於ける最も廣い米作地となり、最も重要な居住地を提供し、鐵道の開通と港灣の修築と相俟つて文化の中樞地となつてゐる。

A₂ 今福川上流の谷 峡谷をなす上流の谷底にはたゞ川の流路があるのみで、廣い耕作地も得難く、通路も設けることは出来ないが、急傾斜な谷壁の所々には階段狀の耕地が開かれてゐる。谷の頭部葛籠の盆地には數戸の家屋があつて住民の生活が營まれて居る。

B 西部山地 勾配が甚しいから十分な土地利用は望むべくもないが、階段耕作を行ひ相當な高所までも居住地が發達してゐる。上部の玄武岩地には草地も廣く、下部の第三紀層の切斷面からは採炭が行はれる。急傾斜であるから後背斜面にある調川村つきのかはに通ずる道路は困難なので崖下の海岸を迂回して通ぜられたし、最近の鐵道線路も亦これに並行して同様な經路をとる。

B₁ 今福川斜面 北部は土地利用度高く、南

部は上流の深谷で利用が進んでゐない。

B₂ 今福灣斜面 今福川斜面に續いた海岸の急斜面で海水直ちに山麓に迫るけれども重要交通線の通過地となつて居る。

C 東部山地

C₁ 縣境山地 東部佐賀縣との境の附近の高い山地は西部山地の高所と同様玄武岩地であつて、國見岳・弘法岳等が高い目標として境界線に當つてゐる。

C₂ 寺上高臺 東部山地の中腹には二百米内外の一平坦面があつて寺上、木場等の部落と若干の耕地とを載せてゐる。弘法岳と北方の城山との間には一低所があるので、佐賀・長崎兩縣を結ぶ幹線道路はその峠を越して容易に通過してゐる。

D 濱脇半島 玄武岩は半島部に於ては美しいメサを形成し、基部の城山ではピュート狀に突起して居る。共に西に背面を向ける非對稱的

な傾斜をなす半島である。

D₁ 濱脇半島西斜面 勾配が緩であるから山上まで耕地がよく開け聚落の發達も良好である。

D₂ 濱脇半島東斜面 急崖を以て直ちに伊萬里内灣に臨み一帯に森林地であつて土地利用の度が低い。

E 飛島 濱脇半島の延長部の一部が水上に頭を出して居るのが大小二島より成る飛島である。此等の半島・島嶼はほぼ南北に連り伊萬里灣を内外二部に分けてゐる。

三 耕地と灌溉

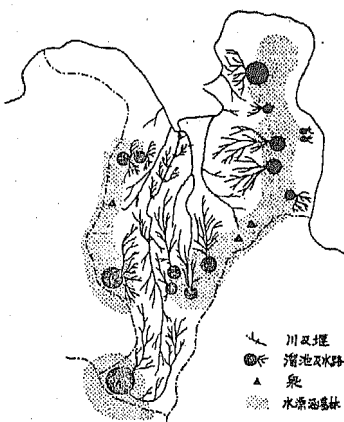
水田は今福平野に最も廣く、こゝは地味にいつでも又灌溉の方面から見ても、水田耕作には便利な所である。今福川の谷には狭い水田地が斷續するに過ぎない。其の他のものは山の傾斜面に階段狀に開かれたもので、上部の溜池から灌溉水を仰いでゐる。山の高所にある森林が水源を涵養して谷の池に水を溜め、それが各水田

第二圖 今福町耕地分布圖



に導かれる。

第三圖 今福町水路分布圖



長崎縣今福町概觀

沈水 谷に人 工を加 へて埋 立てた 今福平 野では 海水干 満の場

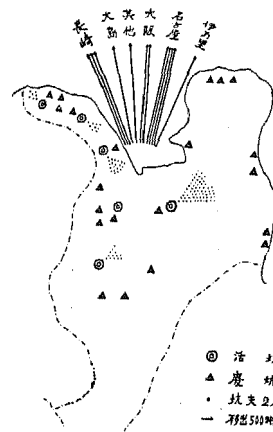
合によつては洪水時に浸水の憂があるので、沿岸は堤防を堅固にする必要があつた。傾斜面から高臺上の水田にかけては反對に旱害のあるところがあるので、溜池の水に注意せねばならぬし、傾斜の甚だしい所では更に表土の流失されることも著しい。畑は傾斜面に階段狀に開かれて居るのが普通であるが、濱脇半島、寺上方面等には臺地上の平坦面にやゝ廣い畑作の經營も行はれてゐる。總じて北松浦半島は肥前半島の特徴を破つて畑よりも田の面積が廣く、今福町でも畑は田の三分の一に當つてゐるに過ぎない。

四 石 炭

北松浦半島の第三紀層中には薄い石炭層が幾層もある。山の高い所は多くの場合玄武岩の覆ふ所となつてゐるけれども、中腹以下の谷壁に砂岩、頁岩の互層の表はれて居る所には到る所に石炭の露頭がある。従つて各所に小炭坑が並び發達し、搬出の機關も小規模で、各海岸の小港は何れも石炭積出を行つてゐるのが北松浦半

島の一大特色である。今福町に於ても各地に採炭が行はれ、埋藏の貧富や、景氣の如何によつ

第四圖
今福町石炭分布圖



て休坑、廢坑も多いけれども、石炭はたしかに今福町の一富源であつて、石炭産出高は人口の増減、町勢の消長を支配して居る。他地方への移出も酒類魚類に次いで屈指の額に上つてゐる。

五 漁業

肥前の各半島では漁業が盛に行はれ、到る處に大小の漁港が發達してゐる。今福も北松浦半島に於ける著名なる漁業の一根據地である。殊に伊萬里灣頭の泥土の沈積のために伊萬里港に

比較的大きい船が出入出來ぬやうになつた今日では、今福漁港の地位は頗る重要でなくてはならぬ。單に位置上のみから見ても、今福は伊萬里内灣と外灣との境に當る要地である。近年鐵道開通の影響は各種の方面に革新を來してゐるが、生魚はたいていトラックで輸送するのであるから漁業に及ぼす影響は少い。

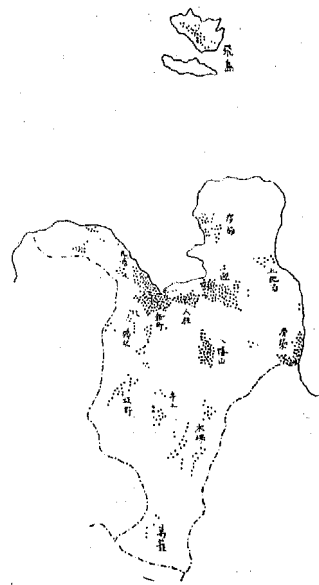
今福灣岸には多くの漁業従業者が集合してゐる。伊萬里内灣に面する滑榮も漁業聚落であるし、飛島も位置其の他の關係上漁業部落の色彩が濃厚である。

六 聚落

今福町に於て人家の最も多く密集して居るのは元浦・新町の部分である。ここは今福平野と今福灣の接する所、西部山地の崖下であつて、海も深く、且卓越北西風も幾らか防ぎ得るし、舟泊に便であるから港町として夙に發達した所であり、今日も今福の中心となつて居る。業態から見ても農よりは商人が多く、清酒の醸造業

も盛である。漁港として重要なほどあつて、水産業に従事する者もここに最も多い。新聞雜誌

第五圖 今福町家屋分佈圖



の購讀者、電力の消費等も最も多く、電話加入者も大部分は此の地に集り、ラヂオ聴取者も此の部落のみにあるし、郵便物の配達もここだけ一日に二回行はれる等すべて、文化的生活の營まれる部落であるから、勞力も不足することが多く、雇傭者も此處には特に多數に上つてゐる。

新町は明治初年の埋立によつて出來た土地で

長崎縣今福町概観

幹線道路に沿ふた最も繁華な町であるが、最近には更に海岸寄の方に埋立地が擴がつて廣い新道がその方に設けられ、自動車もこれを通り、沿道には新しい建築も逐次増加し、繁華はその筋に移動せんとしてゐる。とにかくこの部落は海陸共に交通の軸となつて居る所である。

江迎・濱脇は共に濱脇半島西斜面にある農業部落、滑榮はその反對側にある漁業部落である。滑榮もその北方の土肥浦等と共に以前に炭坑のあつた所で、石炭の積出が行はれた時は賑はつたのであるが、廢坑となつた今日は衰へて、壞れた坑口や船着場の遺跡がさびしく昔を語るのみである。人柱は現小學校のある丘陵下で舊道に沿ひ、江迎と相對した聚落で純商業區である。最近にはこれよりやや離れた東方に停車場が設けられたので、新道に沿ふこの方面には旅館、飲食店、土産物店等が建ちならびつゝある。

八幡山は純粹の炭坑聚落、山地にある佛坂、坂野、寺上、木場等は純農村の散在的聚落、葛

籠は今福川上流の山間盆地にある別天地的の不便な所である。

飛鳥は大島の小島に面する方面に數十戸の密集部落がある。それは此の地方の離島に普通に見る型式の半農半漁の聚落である。

七 商品の出入

今福で生産された米・酒・醬油等は自町今福で消費される外、伊萬里灣口に並ぶ福島・鷹島に仕向けられるものも多い。又木炭や薪は上志佐等から今福へ入つて来る。今福港に揚げられた魚類は京阪・中國方面に、石炭は長崎は勿論名古屋等にまで輸送される。今福で消費する呉服類は大阪・久留米・福岡等から直送され、同様に木材は名古屋から、書籍は東京から送られてゐる。

今福へ搬入されるものでは鷹島・平戸・平戸大島其他の近海からの魚類が最も多額に上る。そして前記のやうに京阪・中國・佐賀等へ送り出す魚類は移入額とほぼ等しい程多いのである。

る。夏になると壹岐島をはじめとして鷹島・星鹿等から西瓜が澤山は入つて来る。それは大部今福で消費するけれども約四分の一は隣村の調川や西山代の住民の口に入る。今福で醸造される清酒は相當の多額に上つてゐるが、其の多くは北松浦半島北部や平戸諸島等の離島に送られ、今福の人はより質のよい佐賀の酒を取り寄せて飲む。酒は移出の第一位にあつて移出總額の六割を占めてゐるのに、移入の部では酒が第三位にあり移入總額の一割餘に當つてゐる。米・雜穀等に就いて見ても同様の形が表はれて、移出、移入共に多額に上つてゐる。

商品取引の上から見ると今福と最も關係の深いのは伊萬里である。藥品・金物類・食料品・雜貨等より果物に至るまで、たいていのものは伊萬里から仕送りを受けて居る。これは獨り今福のみでなく北松浦半島北部一帯は伊萬里の商圏にあるからである。

八 結 言

今から二年前にこの町の今福小學校で郷土調査の研究發表會があつた。私はその前後に於てこの地を踏むこと數回に及び、且小學校の職員、兒童等の調査による多數の資料を恵まれたので、當時からこの地方の事情を紹介し度いものと思つてゐたがその機會を得なかつた。先般小暇を得て粗稿の一部を整理して概要を記したのであつた。従つて本稿は或る方面のまとまつた研究でなくて、單なる地方紹介に過ぎない。

今福町の大部は秘圖地帯であるから五萬分の

駒ヶ嶽北麓の漁村の形態

— 漁業を主とする街村の形態 —

山口 彌一郎

一 緒 言

昭和五年北海道駒ヶ嶽北麓尾白内・掛淵・砂

駒ヶ嶽北麓の漁村の形態

一以上の大縮尺の地形圖によつて研究することは出來ぬ。コントルラインも抜きとつて二十萬分一帝國圖より他に精密なる圖によつて觀察することが出來ぬのは何より不便である。

最後に今福小學校長宮崎泉氏及び同校の訓導各位は私がこの今福を歩いて見た時多忙の中にもかかはらず案内説明の勞をとられ、且又研究調査物を多く提供せられたる厚意に對し深く感謝致すものである。(昭和九年二月)

原の漁村を調査するの機を得た。

抑々世界に於ける著名なる漁場としての吾が